



令和6年度スローガン

～みんなの瞳がキラキラと輝く 楽しい学校～

仲間とつながった運動会

ここ数年の猛暑により、9月の練習が困難となり、昨年より1か月実施を遅らせた秋季大運動会を10月19日(土)に開催しました。子どもたちは、9月下旬より教室で表現運動の練習が始まり、10月7日からの全体練習と様々な練習を積み重ねてきました。そして、今年度スローガン

「全力で悔いのない 世界一輝く運動会」

のもと、最後まであきらめずに全力で本気でがんばる姿がたくさん感動をうみ、一人ひとりが世界一輝いた運動会となりました。

特に1～3年・4～6年に分かれての表現運動では、みんな笑顔で楽しそうに演技する姿が見られ、応援する側まで心躍る気持ちになりました。

また、金管バンド部の「こんにちはトランペット」「さんぼ」の演奏には、夏休みの暑い日も練習してきた努力の跡が表れていました。

最後の「紅白対抗リレー」では、代表選手の負けたくないという思いが走りに表れ、全力がぶつかり合った素晴らしい競走となりました。

運動会の練習や本番を通して、仲間とつながり、心をつなげてがんばった経験は今後の学校生活をさらに豊かなものにしてくれると思います。

保護者の皆様には、毎日の水筒・体操服の準備、運動場の消毒作業、片付け等にご協力をいただきましてありがとうございます。地域の皆様方にも朝早くからのご声援ありがとうございました。



開会式



1～3年表現



金管バンド部演奏



4～6年表現



紅白対抗リレー



閉会式(優勝：赤組)

覚えていますか? 「同和かるた」

県内出身の保護者の皆様は、「同和かるた」を行ったことを覚えていませんか。現在は歴史認識が見直されて使用していませんが、「同和かるた」には、次のような思いが込められています。

原文は、1980年頃に板野郡の保護者が自らの思いを書きためていたことが始まりだそうです。差別のつらさや苦しさを味わいながら、差別と闘って生きてきた保護者の方が、母親となった時に思ったのは、子どもにこの差別の厳しさやつらさを残したくない。子どもには、ここに生まれたということだけで悲しい思いをさせたくない。幸せに生きてほしいと強く思われたのだそうです。子どもに幸せに生きてほしいと願うのは、どの親も共通の思いですね。読み札の、

「おさな児へ 差別させぬと 母ちかう」

には、その思いが強く表されています。その保護者の方は、自らの思いを毛筆でしたため、解放文化祭に出展しました。これを読んだ高校教師だった方が、この思いをかるたにして県下に広めたいと考えました。また、絵札は切り絵画家の先生にお願いしました。多くの人がかかるた作りへの努力を続けられたのは、「差別をなくす」という共通の熱い思いがあったからです。

現在、同和問題を起因とする差別は見えにくくなりましたが、まだ結婚の際やネット上など現れる場合があります。私たちは、これからも同和問題について正しく学び、誰もが幸せに暮らせる社会を創っていきましょう。



(参考資料) 県小人研「ひかり」指導の手引き2007年度版

令和6年度

立岩地区ふれあい人権祭

サブテーマ 自分も人も大切に つなげよう人権の輪

○学習の広場 11月16日(土)～24日(日)
会場：立岩集会所 (8:30～18:00)

- ・児童作品の展示
- ・市内各小・中・高「人権教育実践パネル」展示

○子どもの広場&研修の広場 11月16日(土) 鳴門第二中体育館 (8:40～11:50)

- ・「人権劇」林崎小6年生 8:50
- ・「手話コーラス」どんぐり子ども会 9:25
- ・「人権劇」日常：鳴門二中1年生 9:55
- ・「講演」徳山富子さん(県人権教育指導員) 10:40

演題「私が決める、『私の生き方』」